

園小中職員の連携を目指して

睦沢町立睦沢こども園長 いとひ 糸井 ひとし 仁志



本園は平成20年に町立の睦沢保育所と睦沢幼稚園を統合し、幼保連携型認定こども園としてスタートした。現在は、0歳児から5歳児まで170名が在園する町内唯一の教育・保育施設である。

また、睦沢町では、平成30年に2校の小学校を1校に再編した。園小中各1校の体制となり、これまでの園小中連携教育から一貫教育に向けて歩みを進めている。

1 職員の連携

(1)睦沢町教育振興会

園小中の職員が、睦沢町教育振興会に属し、相互理解、研修に努めている。昨年度は六つの部会毎に、「園小中一貫教育で育てたい子どもの姿『自ら一步を あゆみ出す15歳』」を目指して成長段階毎の姿を設定した。

今年度は、園小中の職員がグループに分かれ、知識や経験を出し合い、共同して実際のカリキュラム作りに取り組んでいる。

(2)研修会

各園小中で行う、講演会や研修会、学校公開等には相互に参加し、子供やその活動内容の理解に努めている。

平成29年度から小中学校職員を対象に、園に関わる制度や運営についての説明及び保育体験のための研修会を、夏休み中に開催している。



3年間で延べ24名の受講があった。参加した職員は、子供の成長段階と園での対応への関心を高め、特に5歳児の生活を小学校にどう引き継ぐかについて課題意識を持った。

(3)卒園児の情報交換

ほとんどの子供が睦沢小学校に進む状況下で、今年度からは、小学校との情報交換を従来の3月に加え5月にも行っている。小学校での生活の様子を在園時の担任職員も共有し、より良い指導の在り方について小学校担任職員と話し合う場としている。

2 接続期のカリキュラム

(1)アプローチ、スタートカリキュラム

教育振興会では、接続期のカリキュラムについても部会を設け検討している。

現在、5歳児では、数や文字、話合い、給食の配膳等の当番など、小学校の活動や学習内容との繋がりを意識したアプローチカリキュラムを実施している。

(2)小学校訪問

今年度は、園児の小学校訪問を2回実施した。「校庭での遊びの中で園との違いに気が付く」「上級生との校舎内の見学や交流を通して小学校の生活を体験する」の二段階で小学校への期待感の醸成と不安感の削減を目指している。訪問するだけではなく、気が付いたこと、感じたことを絵に表したり、話合いの中で伝え合ったりする活動を展開している。

今後も、幼児の姿と幼児教育の目指すところを小・中学校と共有し、睦沢町園小中一貫教育の基盤としての役割を果たしていきたい。

「1人1台環境」時代に向けて

県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当

1 はじめに

昨年12月、文部科学省から「GIGAスクール構想」が発表された。1人1台端末整備及び高速通信インターネット環境整備という内容であるが、一部地方財政で負担する必要はあるものの、かなり大きな補助金が計上されている。このようなチャンスはなかなかないと思われるので、現在検討中の自治体については、ぜひ予算をとって整備を進めていただくようお願いしたい。

2 重要なのは整備後

実際にこの国の財政支出によってかなり多くの学校が1人1台端末を実現すると思われる。しかし、整備することが最終目的であってはならない。なぜなら、今回の構想は、来年度から次々と全面実施される学習指導要領の中で、学習の基盤となる能力の一つとして明記された「情報活用能力」の育成に大きくつながるものだからである。1人1台端末等の整備後、児童生徒がそれをどのように活用していくか、を整備前から具体的に考えていく必要がある。

3 教員一人一人が指導できるために

文部科学省が昨年3月に実施した「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」では、教員のICT活用指導力の「児童生徒のICT活用を指導する能力」における肯定的回答の割合が千葉県平均は68.1%で、全国平均(70.2%)より低い結果となった。児童生徒にICTを活用させる指導力を付けていくことは喫緊の課題ともいえる。

では、どうすればよいか。

まずは、すぐできることから始めてみるとよい。例えば、「教室内外で、自分の端末を使って画像や映像を撮影、記録し、それを大型モニタ

に映してクラスで共有する」、あるいは「各自が板書を撮ったり、教員が板書を撮ってそれを児童生徒の端末に一斉送信したりする」。このような使い方をすることで、児童生徒の「思考する時間の確保」というメリットが期待できる。

次に、学校組織の中にICT推進委員会のような組織を編成し、ICTでできること、やるべきことを明確にして、教員一人一人がイメージを明確につかむことが必要である。

例として、二つ挙げてみる。

(1)「調べる」「まとめる」「伝える」活動のどこかでICTを活用する。

インターネットで必要な資料を収集し、プレゼンテーションソフト等を利用して処理、伝達する。個別ではなく、グループによる協働学習で、統一した内容を作り上げる方法もある。

(2)ICT活用による学習の個別最適化を図る。

自分のペースで課題に取り組んだり、児童生徒の発音を判定できるソフトで個別に練習したりするときに有効である。また、家庭学習で活用できるようにすれば、今回のように何らかの理由で休校になったときも、児童生徒の学習機会の確保につながる。

4 おわりに

「1人1台環境」に対応できるようにするため、本センターでは次の研修を新設した。

(1)高等学校ICT活用研修(推薦)

(2)1人1台端末活用フォーラム(希望・12/5)

上記以外にも、「ICTを活用した授業づくり研修」、「iPadを活用した授業づくり研修」等で、1人1台環境に対応する内容を学ぶことができる。積極的に参加し、大いにスキルを磨いていただきたい。